

農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー登録票（基本情報）

398

ふりがな 氏名	なおえ あきお 直江 章雄				
所属先	所属先名称	坂東市役所			
	役職名	副主査			
専門分野	捕獲手法 侵入防止技術 周辺環境整備 地域合意形成 野生動物管理（生息調査含む） 処理（焼却・減容化） 利活用（食肉利用等） その他（ ）				
対象鳥獣	シカ イノシシ サル クマ（ツキノワグマ・ヒグマ） ハクビシン アライグマ アナグマ カラス カモ ヒヨドリ スズメ ムクドリ その他鳥獣（ クルハラリス ）				
対応可能地域	全国 北海道 東北 関東 北陸 東海 近畿 中国 四国 九州 沖縄 その他※特定の都道府県、地域（ ）				
免許及び資格	狩猟免許（銃：取得年 年、わな：取得年 平成28年） 鳥獣保護管理（ ） 鳥獣保護管理士（ ） その他（ ）				

活動実績	
活動期間	
地域	
対策の種類 ※該当に○を記入	捕獲手法 (○) (○) (○) (○) 地域合意形成 野生動物管理 (生息調査含む) (○) (○) (○) 処理 (焼却) (○) 減容化) 利活用 (食肉利用等) その他 ()
対象獣種 ※該当に○を記入	シカ イノシシ サル クマ (ツキノワグマ・ヒグマ) (○) (○) (○) アナグマ カラス カモ ヒヨドリ スズメ ムクドリ その他鳥獣 (クリハラリス)
活動の内容	<p>活動の動機、発展過程</p> <p>平成28年頃からアライグマによる農作物被害が顕在化し、あわせて生活被害が増加したことから、効果的なアライグマ被害防止対策に市を挙げて取組むこととした。市は農業者や地域住民と今後の被害防止対策について協議し、捕獲活動およびアライグマを農地に近づけないための対策（侵入防止柵の設置、作物残渣・放任果樹の管理等）の強化を軸に、取組みを行っていく方針とした。</p> <p>平成29年3月、市農業政策課やJA等の関係機関を構成員とした坂東市鳥獣被害対策協議会を設立し、あわせて坂東市鳥獣被害対策実施隊を設置した。</p> <p>協議会および実施隊の設立により、鳥獣被害防止総合対策交付金を活用して農業者や地域住民への箱わな貸出し強化、処分施設の整備等により効率的な捕獲体制を整えてきた。協議会から箱わなを貸し出すことで、箱わなの設置から捕獲までを農業者・地域住民が、捕獲個体の回収から処分までを市の実施隊が行う役割分担を明確化し、アライグマの効率的な捕獲体制が整えられていった。これにより、アライグマの捕獲頭数は、令和元年度は418頭であり、茨城県全体（1,119頭）の約3.7割を占めている。</p> <p>活動の内容</p> <p>市では、アライグマによる農作物被害防止対策として①効率的な捕獲体制の整備・強化、②被害防止のための農業者や地域住民等に対する普及啓発活動について重点的に取り組んでいるほか、坂東市鳥獣被害対策実施隊の事務局として、市民からの通報窓口や連絡調整の役割を担っている。</p> <p>①効率的な捕獲体制の整備・強化</p> <p>鳥獣被害防止総合対策交付金を活用し中型獣類用箱わなについて、実施隊設立前の14基（平成27年度時点）から107基（令和2年度11月現在）に整備し、農業者や地域住民に貸与するとともに、わなの管理状況の確認を行っている。農業者等が捕獲を行った際には、実施隊員である市職員が回収、処分を行うことで効率的な捕獲体制が確立している。なお、アライグマの他にハクビシンも同様の体制で捕獲を行うことで、アライグマ同様の被害発生形態を示すハクビシンの効果的な防除が実施できている。</p> <p>また、アライグマの生態等を考慮し、より効率的な捕獲を行うため、アライグマの脱出を防ぐ箱わなの改良や、農業者等に箱わなを貸与する際に、捕獲が期待できるわなの設置場所や中型獣類の判別方法についてアドバイスをを行うなど、指導を丁寧に行っている。</p> <p>②地域住民等に対する普及啓発活動</p> <p>市では、アライグマの農作物被害の拡大防止を目的に、様々な普及啓発活動を行っている。</p> <p>市のホームページでは、月別のアライグマ捕獲頭数を随時更新・公開しているほか、アライグマ捕獲に関する関係法令の説明、作物残渣や放任果樹の適切な管理の徹底について広報を行っている。また、既存の箱わなに改良を加えた、アライグマ捕獲に特化した箱わなによる捕獲成功例の動画を公開し、捕獲技術の普及を図っている。</p> <p>また、市独自で、アライグマによる被害の可能性を判定できる「アライグマチェックシート」や、アライグマの生態や被害の特徴、対策方法について具体的に記載したマニュアルを作成し、ホームページで公開するなど、地域住民のアライグマに対する意識啓発を図っている。</p> <p>5. 活動の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 市全体での効率的なアライグマ捕獲体制の定着が図られており、平成29年3月の実施隊設立後、捕獲頭数は増加した。 さらに、農業者への効果的なわな設置等のアドバイスを開始した平成30年からは、飛躍的に捕獲数が増加している。 <p>年度 平成28年度 平成29年度 平成30年度 令和元年度 アライグマ捕獲頭数 123 163 401 418</p> <p>・アライグマによる農作物被害金額は、協議会、実施隊を設立した翌年度の平成29年度以降大きく減少し、捕獲活動が農作物被害の減少につながっている。</p> <p>アライグマによる被害 平成28年度：464千円 → 令和元年度27千円 鳥獣全体による被害 平成28年度：928千円 → 令和元年度54千円</p> <p>・近隣市町村等を招き、坂東市でのアライグマ対策の取組をモデル的に紹介し意見交換や情報共有等を行う「アライグマ等の被害対策意見交換会」を、研究機関と共同で開催するなど、県下全体の対策推進に大きく貢献している。</p>